

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-1-1	事業名	厚生年金会館存続の検討					
担当	市民まちづくり局企画部調整課 加茂、菊地						211-2206	
全体計画								
事業内容	北海道厚生年金会館は、昭和46年の開館以来長きにわたり、北海道における芸術・文化の拠点としてかけがえのない役割を果たしてきた。 厚生年金会館は、国の年金制度改革の一環として、平成22年9月までに一般競争入札により売却されることが決定しているが、厚生年金会館が担う役割の重要性は今後も変わらず、引き続きその機能が維持される必要があることから、官民協働による取得、運営、資金調達などの枠組みを構築し、会館存続に向けた取り組みを進める。			<年度別の事業内容>				
				<p>【平成19年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道厚生年金会館存続検討会議の実施 厚生年金会館の存続に係る調査業務 官民協働による会館存続スキームの構築に係るアドバイザー業務 <p>【平成20年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道厚生年金会館存続検討会議の実施 施設設備等調査業務に係るアドバイザー業務 一般競争入札への参加 落札した場合の運営体制の検討 				
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)				
	<p>1 札幌商工会議所、北海道、札幌市の三者による北海道厚生年金会館存続検討会議の実施(計5回)</p> <p>2 厚生年金会館の一般競争入札は平成20年度中と見込まれるため、平成19年度中に存続スキームの構築や参加可能な民間事業者の調査・選定を行う必要があることから、専門知識を持つ調査機関等に以下の業務を委託して実施</p> <p>(1) 厚生年金会館の存続に係る調査業務(実績事業費:4,900千円) [期間]平成19年6月～9月 [内容]運営の担い手となりうる民間事業者へのヒアリング調査 民間事業者が参加可能な会館取得、運営、資金調達スキームの検討等</p> <p>(2) 官民協働による会館存続スキームの構築に係るアドバイザー業務(実績事業費:7,600千円) [期間]平成20年1月～平成20年3月 [内容]「北海道厚生年金会館存続に係る調査業務」の結果を基にしたスキーム構築関連業務、入札関連業務等</p> <p>上記の(1)、(2)の調査結果等を基にして存続スキームを検討した結果、札幌市が主体となって入札に参加することを決定</p>			<p>1 札幌商工会議所、北海道、札幌市の三者による北海道厚生年金会館存続検討会議の実施</p> <p>2 これまでの検討の結果、厚生年金会館を存続させるためには、札幌市が主体的に入札に参加し、施設の取得を目指すことが最適であるとの結論に至ったため、市が入札に参加するにあたって各種調査を実施する必要があることから、専門知識を持つ調査機関等に以下の業務を委託して実施</p> <p>(1) 厚生年金会館の存続に向けた施設設備等調査業務(予算事業費:8,000千円) [期間]平成20年5月～9月 [内容]施設および設備の調査、運営期間中に必要な修繕費用や運営期間終了後の解体費用、運営収支見込の算出等</p> <p>上記の(1)の調査結果等を参考に入札金額を決定</p> <p>3 入札への参加</p> <p>4 落札した場合は運営に向けた諸準備を実施</p>				
達成目標の状況								
項 目			18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (予 定)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
北海道厚生年金会館の存続			-	存続に向けた検討	入札参加	存続	存続	存続
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)								
<p>市民との連携、市民参加 会館の存続に向けて、平成17年7月に音楽関係者や文化団体、経済団体などの有志により「北海道厚生年金会館存続を願う会」が設立され、平成18年1月にシンポジウムが開催された。そして、平成18年2月、「札幌商工会議所」と「存続を願う会」により、北海道厚生年金会館存続チャリティ市民活動「LIFE&LIVE Projectチャリティ実行委員会」が結成され、チャリティ公演、募金活動などの存続運動が行われている。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力]会館取得あるいは会館維持、運営に対する財政的支援を北海道、経済界に対して要望している。 [人材協力] [情報協力]北海道厚生年金会館存続検討会議により三者で情報を共有し、地元が一丸となった取り組みを進めている。 [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>								

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	5-1-1		事業名	厚生年金会館存続の検討			
評価(成果)			課題				
<p>存続に向けた検討において、当初は、官民協働による会館の取得を目指していたが、市民交流複合施設が開設するまでの少なくとも7年間程度は大ホールを存続させる必要があることや当地の将来的な土地利用への関与の必要性等を考慮し、札幌市が主体となって入札に参加し、会館の取得を目指すこととした。</p>			<p>厚生年金会館の取得・維持に向けて、入札金額の検討、取得財源の問題、取得後の運営方法など解決しなければならない課題がある。</p> <p>また、地元としての会館存続機運の高まりを背景とした会館取得であることから、北海道や経済界からも何らかの支援を得て、官民協働での会館存続に向けた協議を進めていく必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>施設設備等調査業務によって得られる修繕・解体費用見込などを参考に、入札参加に向けた準備を進める。</p> <p>なお、北海道厚生年金会館存続検討会議では、今後も引き続き、会館の存続スキームについて三者で検討を行い、入札金額、運営方法、これらに係る財源負担等について協議を継続する。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	13,000	8,000	0	0	21,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0	0	0	0
		市債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	13,000	8,000	0	0	21,000
予算	事業費	13,000	8,000	-	-	21,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
		一般財源	13,000	8,000			21,000
実績	事業費	12,500	-	-	-	12,500	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
		一般財源	12,500				12,500
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				97.6%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							